

## 6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の総合評価は B とする。

- ・資格・検定取得率は目標を達成できなかったが、昨年の91.5%を大きく上回る97.2%の生徒が達成し、年々意欲的になってきている。
- ・昨年度に比べて遅刻数は減少しており、生徒の遅刻に対する意識は年々確実に高まってきている。
- ・就職希望者増加の中、一次試験不採用者は昨年度に比べ半減した。進学では国公立への進学は果たせなかったが、推薦入試等で早々に全員が合格を果たした。
- ・部活動の加入率の目標を初めて達成した。部活動は、人間関係の形成にとって大切である。部活動で培った人との接し方は将来大いに役に立ち、進路指導ともリンクしている。
- ・朝食の摂取状況が良くない生徒に個別指導を行った結果、75%の生徒には一定の改善が見られた。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

### (1) 課題

- ・学習習慣の確立と資格取得の推進
- ・生徒指導の充実
- ・部活動の活性化
- ・進路指導の充実
- ・自己健康管理能力の育成

### (2) 方策・・・学校関係者の意見も参考にし、取組を進める。

- ・資格取得のスケジュール表等を使って、個別面談し、意欲を高める。
- ・基本的な生活習慣やマナーの大切さを根気よく指導する現在の取組を継続する。
- ・会社は面接重視で、元気で意欲のある生徒をほしがっており、それに向けて対策を検討していく必要がある。
- ・部活動の成績向上に努める。
- ・朝食の摂取状況に改善が見られない生徒や新たに指導が必要な生徒がおり、食生活を含めた生活習慣と、遅刻との関連も調査したい。

## 8 学校アクションプラン

平成22年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	資格取得の推進		
現 状	・全員受検させている資格・検定に、意欲的に取り組まない生徒がいる。		
達成目標	資格・検定（2種類以上）取得率 卒業時 ----- 100%		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格・検定に関する資料等を配布・掲示し、1年から3年まで継続的に取り組む意識を持たせる。</li> <li>・宿題や課題を課し、家庭学習の習慣をつけさせる。</li> <li>・朝学習、放課後補習を活用する。</li> <li>・生徒に自分の取得状況を把握させることで、目的意識を持たせる。</li> </ul>		
達成度	97.2% 今年度卒業生（平成22年2月16日現在）		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格・検定に関する実施案内の掲示や、各担任、各学科から働きかけて、資格取得に対する意欲喚起を促した。</li> <li>・検定前には家庭学習用の課題プリント等の配付し、朝学習、放課後補習を行った。</li> </ul>		
評 価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>昨年度の卒業生の資格取得率（2種類以上）は91.5%一昨年度は88.4%であったので、年々意欲的になってきている。特に今年度卒業生はひとつも取得できなかった生徒はいない。（1種類だけの生徒が3名）</td> </tr> </table>	B	昨年度の卒業生の資格取得率（2種類以上）は91.5%一昨年度は88.4%であったので、年々意欲的になってきている。特に今年度卒業生はひとつも取得できなかった生徒はいない。（1種類だけの生徒が3名）
B	昨年度の卒業生の資格取得率（2種類以上）は91.5%一昨年度は88.4%であったので、年々意欲的になってきている。特に今年度卒業生はひとつも取得できなかった生徒はいない。（1種類だけの生徒が3名）		
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格は一生のものである。若いときにできるだけ取っておけばよいと思う。</li> <li>・資格を一つでも持っていればと思う。</li> <li>・資格取得のスケジュール表等を使って、個別面談し、意欲を高める。</li> </ul>		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学に少しでも役立てたいとの意識が、早くから各種資格検定に挑戦する生徒が多くなり、大半の生徒は2年終了時までには複数の資格を取得している。</li> <li>・その一方で、資格取得を就職活動に生かそうとする意識が低い生徒が存在している。さらに意識を持たせる工夫を要する。</li> </ul>		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成22年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識がやや希薄なため、無気力になって安易に遅刻をする生徒が多い。</li> <li>・充実した学校生活を送るためには、遅刻の防止を中心とした基本的な生活習慣の確立を図る必要がある。</li> </ul>	
達成目標	年間総遅刻回数	
	300回未満	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員による登校指導やクラス別遅刻者統計を掲示して、生徒に遅刻の防止を呼びかける。</li> <li>・遅刻をした生徒には、翌日に早朝登校をさせる。</li> </ul>	
達 成 度	242回（平成23年2月10日現在）	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者に「入室許可証」を発行すると同時に「遅刻集計用紙」に日付・遅刻理由を記入させ、自分の遅刻回数が見えるようにして、意識付けを行った。また、学年やクラス担任に遅刻に対する意識をもってもらうため、学期毎にクラス別遅刻者数を集計した。</li> <li>・遅刻した生徒には、翌日早朝登校をさせた。</li> <li>・学期中に2回目の遅刻で、奉仕活動を実施。3回目の遅刻で保護者を召喚し、生徒・保護者と教師で面談を行い、家庭での協力をお願いした。</li> </ul>	
評 価	A	昨年度に比べて遅刻数は減少しているものの、目標達成は微妙である。ただ、生徒の遅刻に対する意識は、年々確実に高まってきている。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻は社会に出たら信用問題につながる。良いしつけは早めに行えば後で苦労しない。現状の取組を継続してほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の登校指導など、遅刻防止に対しての教職員一丸となつての取り組みにより、遅刻総数は年々減少している。将来的には「遅刻ゼロ」の学校になるよう毎年遅刻総数のハードルを高くして取り組んでいるが、まだまだそのレベルには達していないのが現状である。</li> <li>・ある程度まで遅刻数が減少した今、一律な指導では遅刻数の大幅な減少は望めない。来年度からは、一人ひとりの遅刻の要因を追求し、個々の生徒にとって効果的な指導方法を家庭との連携を図りながら取り組んでいきたいと思う。また、生徒たちには、遅刻指導とあわせて時間を守ることの大切さを訴えながら、生徒自身の自発的な基本的な生活習慣の定着を推進していきたい。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の高揚	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観の乏しい生徒がいる。</li> <li>・進学者の中には、目的の明確でない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。</li> <li>・進路先決定後の変更者や、就職後の早期離職者がいる。</li> </ul>	
達成目標	3年生の進路決定率	2月末までにおける決定率
	----- 100%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや職場見学会、オープンキャンパスへの参加を積極的に勧め、生徒の進路意識を高める。</li> <li>・学年や科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。</li> <li>・求人状況が厳しくなる中、生徒の進路希望実現のため、企業訪問をするなどして求人の確保に努める。</li> </ul>	
達成度	99% 108人/109人(2月15日現在) 就職 77人/78人(98.7%) 進学 31人/31人(100%)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ(1年全員4, 7月 2、3年希望者20名)</li> <li>・進路オリエンテーション(1年、3年) ・進路講話(3年、2年)</li> <li>・応募前見学、オープンキャンパスへの参加(3年全員)</li> <li>・企業訪問、関係機関との連携による求人開拓や確保</li> <li>・就職、進学に向けての準備・指導(面接、作文、小論文指導、進学補習)</li> </ul>	
評 価	B	就職希望者増加の中、一次試験不採用者は昨年度から半減。例年並の内定を得られたものと思われる。進学では、国公立への進学は果たせなかったが、推薦入試等で早々に全員が合格を果たした。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい社会情勢の中、良く頑張っておられる。</li> <li>・会社は面接重視で、元気で意欲のある生徒をほしがっている。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の進路を真剣に考えていない生徒が見られる。進路意識高揚のための取り組みを考える。</li> <li>・企業訪問、関係機関との連携を密にして求人情報の収集や求人確保に努める。</li> <li>・激化する就職採用試験や入学試験の合格率を高めるために、面接・作文指導や進学補習の充実を図る。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の加入率の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の加入率は昨年1月の時点で79%である。1年生が4クラスになり、在籍生徒数の増加とともに、部員数も拡大する。このことから部活動の活性化、成績向上を図るために、各部の取り組み方も再検討している。</li> </ul>	
達成目標	部活動の加入率	1月現在
	----- 80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>部長会議の定例化を図り、校内での向上意識の高揚を図る。</li> <li>部活動を辞めた生徒への働きかけ(他の部活動を積極的に勧める)。</li> <li>一流選手や指導者を招聘し、講演会(講習会)を開催する。</li> </ul>	
達 成 度	5月(91.5%) 1月(86.5%)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生に対して学年集会で100%加入の趣旨を説明し、考慮期間を十分取り、自主的に選択できるようにした。</li> <li>運動部に所属している生徒に、心肺蘇生法・AEDの使用方法を学ぶとともに、緊急時の心構えについての研修会を昨年に引き続いて開催した。</li> </ul>	
評 価	A	初めて目標を達成し、良かった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動は、人間関係の形成にとって大切である。部活動で培った人との接し方は将来大いに役に立つ。進路指導ともリンクしていると思う。</li> <li>部活動の成績にも反映されればと思う。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>改築工事により、テニス部の練習場所が学校内に無く、みどり野高校や宮野運動公園テニス場に行かなければならず、移動時の危険も伴う。</li> <li>部加入率も86.5%と高くなり、学校生活に落ち付きが見られる。今後の部活動の成績向上が期待される。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活リズムの定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活・睡眠・運動など生活習慣に問題のある生徒が多い。</li> <li>・特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満など心身の健康と相関し、学校生活に悪影響を及ぼしている。</li> </ul>	
達成目標	朝食摂取率	1月末における摂取率
	95%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活実態調査を年2回実施し、その結果を「保健だより」で知らせ、各自の生活を振り返らせる。</li> <li>・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。</li> <li>・担任や部顧問、教科担当者との連携を図る。</li> <li>・「健康を考える日」に外部講師を招き、集団保健指導を実施する。</li> </ul>	
達 成 度	朝食摂取率	92.8% (5月)      93.6% (11月)
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒を対象に生活実態調査を実施。(5月と11月)</li> <li>・5月の調査で朝食の摂取状況が良くない生徒に個別面談を実施。対象は27人で、各自の摂取できない理由に応じて改善方法を考えさせた。</li> <li>・1年生を対象に外部講師を招き、「生活リズムと健康 食生活を中心に」というテーマで講演会を実施し、朝食の大切さを指導。</li> <li>・担任や部顧問に生活実態調査結果を知らせ、1学期末の保護者会で家庭への協力依頼や連携指導をお願いした。</li> <li>・生徒保健委員会による広報誌「わかば」で、毎号「朝ごはんGO!」シリーズを掲載し、朝食摂取を呼びかけた。</li> </ul>	
評 価	B	個別指導を行った生徒の75%には一定の改善が見られたが、改善が見られない生徒や新たに指導が必要な生徒がいる。
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ですることかと思うが、是非続けてほしい。</li> <li>・遅刻とも連動しているのでないかと思うので、調査してみてもどうか。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝食の習慣化」と「生活習慣改善」を継続的に推進し、規則正しい生活リズムの定着を図っていきたい。</li> <li>・調査や個別指導に加え、生徒保健委員会等の活動を関連させて行い、将来に向けても生徒の意識を高めていきたい。</li> </ul>	

( 評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった )